

# さんぐりあ

名古屋NGOセンターの主な活動

- ① 地域及び全国的NGOのネットワーク作り
- ② NGOスタッフやボランティアのためのセミナー実施
- ③ 一般市民へのNGO情報の発信
- ④ 地球市民教育のためのセミナー、フォーラム等の実施
- ⑤ 自治体、及び関係機関への提言・協力活動

さんぐりあとは、赤ワインにいろいろな果実を漬け込んでつくる飲み物です。  
これを世界にたとえ、さまざまな果実(人々)の個性を損なわず、素晴らしいハーモニーが奏でられるようにと願いを込めて、名付けられました。



高浜市多文化共生コミュニティセンターつなぐにて日本人スタッフから日本語の説明を受けるホンさん、それを見守るみよこさん(4ページの記事参照)

## 特集 コロナ禍のもとの「外国人」たち

日本人でも戸惑うコロナ禍での生活が続いています。定額給付金、休業支援金、緊急小口資金貸付、住宅確保給付金など、政府はさまざまな政策を打ち出してきましたが、そうした政策は日本で暮らす外国につながる人たちに、どのような形で届いているのでしょうか。また、彼らは、この二年間どんな思いで日本で暮らしてきたのでしょうか。支援団体、当事者にインタビューしました。

# コロナ禍のよとの「外国人」たち

「COVID-19」新型コロナウイルスの脅威は、人種や民族・国籍や国境を越えて、深刻な影響を私たちの社会に与えています。しかし、実際にはその影響は、社会の中のより「弱い」立場にある人々に、より大きく現れています。その中でも特に、移住労働者・技能実習生・留学生や、外国につながる子どもたちなど、海外にルーツを持つ人々・「外国人」たちの置かれている状況や、そこに向き合う私たち市民社会の取り組みについて考えてみます。

東海地域における多文化共生分野の中間支援NPO、多文化共生リソースセンター東海の代表理事の土井佳彦さんに、このテーマについて聞いてみました。

## 団体の設立から、今のコロナ禍での取り組み

設立の2008年は、世界同時不況の波に襲われた「リーマンショック」の年でした。地元の外国人労働者の大量解雇や雇い止めで深刻な事態が起きました。その時の取り組みで実感したことは、世界規模の大きな社会状況の変化の中では、一団体がどうにかできるものではなく、関係する団体や人々が協力していくことの必要性でした。当時と異なり、数百の団体と共に多文化

共生の社会づくりに取り組んできた蓄積があり、その経験を踏まえて力を発揮すべき状況がこのコロナ禍でした。

## あいち新型コロナ関連情報共有グループ

全国に緊急事態宣言が発せられた昨年4月、身近な外国人住民への影響を探ったり食糧支援をしたりと様々な活動を始めていた中、日頃のつながりから生まれたのが、「あいち新型コロナ関連情報共有グループ」という非公

開のSNSグループでした。30人ほどで始まったこのグループに参加したのは、外国につながる子どもたちの学習支援や大人向けの日本語教室、多言語での生活相談、就労支援、通訳や翻訳、地域の防災など、多文化共生社会をつくるという共通の目的を持つ、愛知県内で活動する人々でした。そこで生まれた成果の例が、外国人住民への特別定額給付金の申請のサポートや各種生活相談対応でした。

外国人ヘルプライン東海は、日本で生活している外国人の方々のために、悩みごとの相談に乗ったり、通訳や翻訳を行っている団体です。代表の後藤美樹さんに、コロナ禍の中でどのように活動に取り組みされたのかお話を伺いました。

コロナ禍での外国人の方の支援は大変なご苦労があったと思います。

一番相談が多かったのが、収入減少などを理由とした生活困窮に関わる相談です。コロナの影響がなくても経済的に不安定になりがちな外国人の方が、勤務時間を減らされたり、失職を余儀なくされています。留学生の方からも飲食店のアルバイトがなくなり困っているという相談もありました。

母国に帰りたくてもそもそも航空便がなく、高額な正規料金になってチケットが買えない方も多かったですね。

具体的にどのような支援をするのですか。

住民票がある相談者は、まずは行政の給付金や貸付金を紹介しています。

ところがその他の給付金・貸付金の制度がわかりにくい

し、制度があることすら知らない方も多いようです。住居確保給付金という、収入が減少した方を対象に、家賃を最大1年まで給付する制度がありますし、社会福祉協議会では緊急小口資金等特例貸付という収入が減少した方に20万円を無利子で貸す制度があります。

1人10万円給付される特別定額給付金は、国籍に関係なく住民基本台帳に記載されている方なら誰でも支給されるもので、書類が役所から直接届くため、私たちが支援している範囲ではもらえなかったという声はありませんでした。ただ、外国人の支援仲間からは、本国に一時帰国していて受け取りできなかった人がいたという話をきいています。

貴重な支援制度ですね。

ところが、住居確保給付金も、特例貸付も、申請の方法が



## NPOおたがいさま会議

同じ頃、全国規模で災害救援活動に取り組んできたレスキューストックヤードが呼びかけて、「NPOおたがいさま会議」というネットワークが誕生しました。専門分野や地域を超えて、多様なセクターの協力で課題解決の知恵を絞り、お互い応援し、過不足を補い合える場づくりが目的でした。毎週火曜日の夕方、第1回の58団体・71人から始まったオンライン上の会合が、今に至るまで続けられてきています。

ある回で、私の団体が外国人支援の現場を報告すると、他の団体から食糧や生活物資の提供があったり、ある大学関係者からの協力で、学生有志によるオンライン日本語教室が始まったりして、コロナ禍で疲弊していた当事者や我々を大いに支えてくれました。

## 名古屋市天白区の徳林寺

名古屋市内のお寺にコロナ禍の影響で住まいを失った外国人たちが身を寄せていることを、上記のネットワークグループへの投稿で今年の5月に知り、徳林寺へと通うようになりました。コロナ禍のために解雇され、寮からも追い出された人や、学校を卒業したあと進学も就職もできずに唯一の収入源だったアルバイトもなくなり家賃も払えなくなった、多くのベトナム人が身を寄せていました。帰国を希望しても、コロナ禍の広がりからベトナム政府が帰国を厳しく制限したことも重なって、行

きどころを失った人たちでした。御住職さんと地域の人々が彼ら彼女らを支えていました。移住連(移住者と連帯する全国ネットワーク)のメーリングリストで知った、生活困窮している外国人への生活支援金を提供する事業が、このお寺に身を寄せている人々に使えることが分かり、滞在者のニーズを聴き取った上で、申請のお手伝いをするようになりました。93人の方に、3万円ずつを手渡すことができました。

深刻な状況が続いていますが、コロナの問題があったゆえに、今まで直接的なつながりが少なかった技能実習生や、オーバーステイの人々の支援にも関わることができるようになりました。コロナ禍で生まれた様々な草の根のネットワークは、これまで相互に築いてきた関係性の上に、新たな展開を見せながら、成長を続けています。

(担当:中島正人)

複雑で難しいのです。「収入基準額」などの専門用語も飛び交いますし、添付する書類も膨大で、日本人の方でも難しいと思います。私も自分一人でミスなく申請書類を完成させる自信がないです(笑)。

長く日本で暮らしている外国人の方でも、日本語は聞いたり話したりはできるけど読み書きができない方は多くいます。そのため私たちが市役所に同行して通訳したり書類作成をお手伝いしたりすることもあります。ただし、本来なら行政が、やさしい日本語や多言語でわかりやすく外国人に伝える義務があると思っていますね。

### これらの情報はどのように入手するのですか？

行政や国際交流協会のHPが基本ですが、多文化共生関連の市民団体のネットワークでの情報交換も役立っています。

### 今回のコロナでは新しい生活様式を求められています。外国人の方はいかがでしょうか。

テレビなどで紹介されていることもあり、マスクなどはしっか

り付けていますし手洗いもしています。マスクになじみのない国の方でもきちんと付けていますね。

出身国はロックダウンを実施している国もあり、外出のたびに行政の許可が必要になったり、マスクをつけずに外出したら罰金を課される国もあるので、「日本はゆるいね」と話す外国人住民の方もいるぐらいです。

### ワクチン接種の予約も難しいですよ。

多くの日本人でも予約に苦労していますが、外国人の方はそれ以上に大変です。ワクチンの接種券は役所から届きますが、ワクチン接種の予約がいつ始まるか、どこで予約ができるかなど情報をえるのが大変です。電話予約のためのコールセンターの日本語やりとりが難しく、また日本語のホームページが理解できずウェブ予約もできないので、かかりつけの病院に代わりに電話して予約したこともあります。

取材時点(8月2日)の情報ですので、最新の情報はHPなどで直接確認してください。

(担当:丹羽輝明)

## 愛知県に暮らす外国人の方に聞きました 新型コロナウイルスで生活変わりましたか？

インタビューしたのは、来日した時期も年齢も違う方たちです。これまでの日本での生活、経験も含めてお話を伺いました。できるだけ日本語で、どうしても難しい時はスマホの通訳アプリも使いながらのお話でしたが、みなさん、できるだけ日本語で話そうとさせていただきます。(取材をしたのは2021年7月～8月)

(担当: 貝谷京子)

よしむら いけまつ ラウラ みよこさん (ブラジル人 高浜市在住 2011年来日 定住者 60代)



私は、お弁当を作る会社で働いています。だから、コロナで仕事が減るということはないです。すごく困ったということもないです。でも、お友達で仕事が減ったという人の話はたくさん聞きました。私たちは、みんな困っている人を助けるっていう習慣があるから、その困った人のところに食料品を持って行ったりして、お手伝いをしました。それは、いつでもいっしょです。仲間助け合っています。

ワクチンはもう2回打ちました。打つ時に困ったことはありません。質問用紙はポルトガル語で書いてあったからわかりました。直接クリニックに申し込んで、予約もすぐにできました。難しいことは、コミュニティセンター代表の新美さんに聞いたら教えてくれます。ワクチンの後、友達は腕が上がらなくて大変だったと聞きましたが、私は大丈夫でした。

グエン ティトゥー ホンさん (ベトナム人 高浜市在住 2020年11月来日 家族滞在 20代)



旦那さんは2018年にエンジニアとして日本に来ました。コロナが流行ってから日本に来ることになりましたが、旦那さんといっしょに暮らしたいと思ったから、早く来たいと思いました。ベトナムに子どもがいます。9月に来日する予定です。不安だけれど、離れて暮らすよりいっしょに暮らしたいです。旦那さんはコロナになって、仕事が減りました。残業も無くなって収入は減っています。家賃などは変わらないのに収入が減ったのは辛いです。今はみんなマスクをしていて口の形が見えないし、離れて話さないといけなから、日本語の学習をするのに困ります。

ワクチンは自分で予約をして、クリニックで打ちました。コミュニティセンターではワクチン接種予約のお手伝いをしています。インターネットの予約は、最初は難しかったけれど、教えてもらってできるようになりました。

下岡 ボルサ ロガンさん (ブラジル人 武豊町在住 2019年来日 定住者 10代)



高校生の時に、親に呼び寄せられて来日しました。学校はブラジル人学校に通って、17歳で卒業しました。ホテルでベッドメイキングのアルバイトを一週間に4日やっています。工場では日本語を話さないけれど、ホテルでは日本語を話すチャンスがあるから、ホテルの仕事をしました。コロナでホテルの仕事が暇になった時に、マクドナルドでアルバイトもしました。お父さんは今年から英語の先生をしています。前はお母さんと同じで、工場で働いていました。けれど、コロナで仕事が減ったから、お父さんは工場をクビになって、今年から英語の先生になりました。お母さんは今も工場で働いています。

外国につながる若者が集まるキャンプで知り合った、代表の牧野さんに誘われて多文化市民メディアDiVE.tvで働くようになりました。日本語をしっかりと勉強して、日本で暮らす外国の若者たちを助ける仕事をしたいと思っています。

**当** 団体が活動する岡崎市は、県内で4番目に多い約12,000人の外国人住民が暮らしている。「この街に住んでよかった、Viva=バンザイ!」と思う地域づくりを目指して2010年にアルゼンチン人と日本人の3人で立ち上げた。これまで防災・教育のセミナーや子どもの日本語教室などを行ってきたが、コロナの影響から緊急支援を行った。

まずは2020年4月から多言語での情報発信からはじめたが、「食べ物を買えない」とSOSが寄せられるようになった。経験はなかったが、食糧支援を2020年6月から毎週日曜日にはじめることにした。前から縁のあったアメリカのフィッシュ・ファミリー財団からの助成金が立ち上げを後押ししてくれた。継続している中でメディアに取り上げていただき、地域の企業・個人から物や寄付金をいただいたり、買い出しや仕分けも含めて支援して下さるヘルピングハンズさんとの出会いもあり何とか継続することができた。

2021年6月で区切りをつけたが、1年間でのべ

エッセイ  
**NGOの散歩道**  
第34回

**コロナ禍での外国人支援**

600人に支援を行った。ブラジルの方を中心にペルーやベトナムなど生活者のみなさんが来ていて、年代は40~50代が5割以上で、比較的年齢の高い方が多かった。仕事についても45.9%が失業、29.7%の方が給料が減ったと答えていて、大きな影響が出ていた。

食料品は長期保存ができるものを中心に、なるべく外国人が普段食べるものを意識的に準備をした。自分の国の食べ物を見つけた時に涙ぐむ方もいて、お腹を満たすだけでなく、母国の味など心を満たすことも必要だと感じた。

今回の緊急支援は、最低限のセーフティーネットとして機能することができ、外国人住民のことを日本人住民に知ってもらえたことは成果であった。ただ、コロナの影響が続く中、今後も当団体としてできることを模索していきたい。

Vivaおかざき!!代表 長尾 晴香

さんぐりあ編集委員がおすすめするモノ・ヒト・メディア情報

**NANGOC RECOMMENDS**  
なんごりこめんず vol.72

このコーナーでは皆様からの「りこめんず」を募集しています。NGOに関するあらゆる「おすすめもの」情報をおよせください。e-mail:info@nangoc.org ※「NANGOC」とはNAGoya NGO Centerの略です。

**BOOK** アンダーコロナの移民たち  
鈴木江理子 編著

内藤裕子の  
オススメ

移民、労働政策の研究者である鈴木も含め、現場で在日外国人たちにかかわってきた24人による切実な告発が胸に刺さりました。外国人たちの窮状の背景には、日本国籍を持つ者さえ、不安定で貧困な働き方を余儀なくされている現状があります。これはまさに人ごとではなく、自分ごとなのです。

さらに問題の背後には共通した構造があります。グローバルに拡大する「新自由主義」のもと、経済界に付度する政府の不作為、地方自治体における社会問題への対応能力の不十分さです。また、派遣企業や受け入れ先が法令違反した場合の罰則規定の不十分さも改善すべきですが、それを指摘している間にも、人は飢え苦しんでいます。応急手当としての「互助」に頼らざるを得ないのが現状です。

移民たちを都合よく使っておきながら、危機の際には自己責任論をふりかざす人々がいます。その冷たい眼差しは外国人社会への圧力となり、移民たち自身が「援助を受けるのはずるい人」あるいは「援助は恥」と感じさせるように仕向けている、という本書の指摘に問題の根の深さを感じました。



明石書店 2021年  
2,750円

**SHOP** meets

高橋里加子の  
オススメ

JICA中部の1階にある小売スペース。さんぐりあ読者にはご存知の方も多いただろうフェアビーンズの跡地に入のお店が『meets』です。サステナブルをテーマにしている『meets』。フェアトレードの商品はもちろん、環境に配慮した商品が多く感じられました。

私が特に注目したのは洗剤。種類もたくさんあり、量り売りもあります。写真のソーブナッツは、木の実を麻袋に入れて洗濯機をまわすだけで洗濯ができる面白い商品。もちろん100%天然で環境にも身体にも優しい。JICAの見学やイベント参加のついでに立ち寄り人が多い場所です。より関心を高めるきっかけになってくれるといいですね。

コーヒーやカレー、雑貨の種類も多く見ごたえもあるので、ぜひ立ち寄ってみては。



結日(ゆうひ)のソーブナッツ 1,980円

**meets**  
〒453-0872 愛知県名古屋市中村区平池町4丁目60-7  
JICA中部 なごや地球ひろば1階  
名古屋駅 徒歩13分  
オープン:火~土曜日 11~17:00  
定休日:日・月曜日(臨時休業あり)

# Nたまのいま

No.44



たなか さとえ  
Nたま5期生 田中 里枝さん

名古屋NGOセンターが主催する、将来のNGOスタッフを育成する“次世代のNGOを育てる、コミュニティカレッジ”（通称Nたま）。2002年～2019年度までの17回で（2004年、2020年度はお休み）、研修を受けた方は250名。このうち、のべ143名の修了生がNGO・NPOスタッフの担い手として羽ばたきました。

約半年間の研修を終えた卒業生たちは、今ここで、どんな活動をしているのでしょうか？第44回はNたま5期生、田中里枝さんにお話を伺いました。

## 地元で多文化共生に取り組む

### ■修了後の活動について教えてください。

Nたまのグループワークでは多文化共生グループに参加していたのですが、Nたま終了後、中間支援団体で多文化共生事業担当者の募集があったので、1年ほど職員として働きました。日々、生活をおくる中で多様な出来事を経験し、自分自身がマイノリティの側になる事も決して珍しい事ではないのだという気づきから、多文化共生の分野に関わって行きたいという意識を明確に持ちました。

その後、地元に戻り、ブラジル出身で学校の通訳をしている方と出会い、お互いが同じ問題意識を持っている事に気づいたのがきっかけで、2011年に一緒にCAPCO（カピコ／大垣外国人コミュニティサポートセンター）を立ち上げました。

### ■どういった活動をしていますか？

小・中学生対象の放課後学習支援教室、義務教育年齢を過ぎた20歳までの支援事業を年間開催しています。夏休み特別教室やセミナー等も開催しています。

また相談事業として、家族や学校からの相談にも対応しています。子育てや進学に関する事、アイデンティティーのゆらぎや発達に関する事など、心理カウンセリングが必要なケースまで多岐にわたります。家族や学校と連携するとともに、

母語で相談できる臨床心理士など多方面の専門家の協力を得て対応しています。

CAPCOの教室は、全員有給スタッフで運営されています。専門性を生かして問題に対応できることで、生徒たちも安心して過ごせる場となっています。

### ■コロナ禍になって変化は？

学校が休校になり、大量の宿題の束を持って帰って来た子供を見て、どうしたらいいのかわからないといった、保護者からの不安の声が多くありました。対面が難しくなっても、WEBに切り替えてサポートを継続することで、安心してもらえています。

1年ほど経過した頃から、自宅待機が続いて収入が減っているなど、保護者の仕事に関する相談が増えてきています。

### ■他に取り組んでいきたいことは？

CAPCOを卒業した子供達の就労に関して、企業側は外国にルーツを持つ人達の文化の違いから、扱いにくいイメージを持っていることがあります。幼少期から日本で生活をおくっている子供達はきちんと使い分けができます。そういった社会にある誤

解を解いていくと共に、子供達が自身に対するポジティブなイメージを持ち続けられるような取り組みが重要だと考えています。

### ■Nたまが活かされていると思うことは？

迷いが出たときに、何のために、誰の側に立つのかを立ち返って判断できる軸を持つことができたのが大きかったと思います。

Nたまを振り返ると、私自身はエンパワメントをテーマとして取り組んでいたと思います。その重要性を体系立てて理解できたことがトライ&エラーを繰り返しながらCAPCOの活動を続けていく力になっていると思います。



セミナーで講師を務める田中さん

（担当：市川隆之）

## センターの動き

## 人財・活動育成

## Nたま18期はじまりました！

NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティ・カレッジ(通称:Nたま)18期では、オンラインでの研修も取り入れ実施しています。今年の研修生は、20～60代の学生や社会人まで幅広い世代、遠くは広島、大阪からの参加も含めた14名です。

7月24日に入学式、8月1日はNたまでは欠かせない講座となっている、池住義憲さんの講座「NGOはなぜあるのか」を実施。また、8月7日には、アジア保健研修所を訪問、オンラインでインドにいる元研修生とつなぎ現地の状況や活動への想いを聞きました。更にAHI施設内の見学、後半はインドで起こった事例を基に原因分析の手法を学びました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、急遽予定を変更することもあります。18期生が今後の研修を通して学び、自主企画をどのように作るのか楽しみです。

Nたまに関わってくださっている全ての皆様、1年お休みしていましたが無事に開催できました。今年度もNたまサポーター募集を行っております。応援のほど、どうぞよろしくお願い致します！



アジア保健研修所で行った、フィールドワーク第一回、インドで起こっている貧困の現実から考える」

(報告:加古)

## 新理事紹介

にしだ ふみの  
理事 西田 文乃 公益財団法人名古屋YWCA総幹事



## 誰かの課題を私たちの課題に

名古屋YWCAは、女性、子ども、外国人など弱い立場に置かれている人に寄り添い、課題解決に向け活動しています。私自身は日本語教育に携わってきました。しかし私たちだけでは力が及ばないことが多くあります。他のNGO団体も同様ではないでしょうか。これをネットワークや連携で支えているのが名古屋NGOセンターです。

小さき声を拾い、共に学び、つなぎ、発信し、育み、背中を押す、名古屋NGOセンターのこの働きが今後も続き、誰かの課題が1つでも減るようお手伝いできればと思っています。

※退任役員:

丹羽輝明、小池康弘

※再任役員:

【代表理事】中島隆宏、八木巖

【常務理事】戸村京子

【理事】浅野陽子、伊藤幸慶、

市川隆之、市野将行、龍田成人、

竹内ゆみ子、中島正人、坂茂樹、

松浦史典

【監事】倉地茂雄、横山紀子

## 新加盟NGO紹介

## 特定非営利活動法人 地域の未来・志援センター

2004年に設立、環境をテーマにした東海地域中間支援組織です。助成金セミナーや事務局サポートなど団体運営支援、交流の場づくり、地域環境活動の情報発信、持続可能な地域づくりを担う人を育てる人材育成講座、中山間地域でのまちづくり・生業づくりなどの活動を行っています。

地域の持続性や環境の課題に対して地域や国を超えて取り組む必要性を感じ入会しました。みなさんと一緒にステキな未来を作っていけたらと思います。



大学生の環境活動サポート

●住所:〒461-0002

名古屋市東区代官町39-18

日本陶磁器センタービル5階

中部リサイクル運動市民の会内

●TEL:052-936-3213

●E-MAIL: office@c-mirai.org

●Webサイト:https://c-mirai.org/

●代表者: 代表理事 中川恵子

●対象国: 日本

(主に愛知、岐阜、三重)

●活動分野: 環境、多文化共生、その他の分野

## 活動報告カレンダー

2021年3月1日～2021年7月31日

## ●ネットワーク

・シーテック クリック募金2021(～1月)開始(目標2万クリック)

情報発信	3月～7月	
ホームページ	更新回数	11
	ビジット数	140,170
facebook(フォロワー数1,308人)	更新回数	30
メルマガ(登録数257人)	配信回数	21

## ●コンサルティング

・NGO相談(外務省NGO相談員): [3～7月361件]、出張相談(3/14@高山市、5/12@愛知学院大学、6/9@愛知淑徳大学)

## ●情報収集・発信

・会報『さんぐりあ』5月号発行(1,000部)・発信(4/23)

## ●政策提言

・JICA「環境社会配慮ガイドライン」改定案 パブリックコメントに向けたNGO/CSO向け勉強会共催(7/2)

## ●人材・活動育成

・NGOスタッフになりたい人のためのコミュニティ・カレッジ2021(Nたま)説明会(6/17,20,23,26)入学式(7/24)

## ●運営

・総会(5/22)・理事会(4/24,5/22,7/13)  
・職員会議(3/2,9,16,23,30,4/6,13,20,5/7,11,18,28,6/1,8,15,22,29,7/6,20,27)

●賛助会員(個人)

【更新(賛助会員A)】

近田千波、山本卓也、石井りか、加藤寿子、高木雅成、矢内淳、山崎真由美、原田篤実、加藤美紅、神田すみれ、大川元嗣、山田隆円、松本恭一、二角智美、横山紀子、高野菜、福田美津枝、平尾秀夫、谷川毅、蟹江舟美、川島紀之、水野洋計、名嶋聰郎、林滋、中島正人、中島正、松田則雄、堀田妙子、平野木恵、齊藤尚文、谷口千賀子、吉川典子、近藤公彦、矢田昌史、水谷洋子、鷺見三恵子、桃井義博、齋田容子、岩田崇、加賀美薫、三田禮子、川合千代子

【更新(賛助会員B)】

日沖修、安藤誠、中垣貴裕、西川侑里、中島隆宏、平沼恵理子、中尾さゆり、山岡要子、吉田英一、松尾朋之、裏見登志子、高田信英

【団体会員】株式会社シーテック

【新規会員】佐竹真明、渡辺祐樹、堀尾歩見、中根翔子、釋潮叡、岩瀬孝弘、小林知穂、柴田さくら、白井希佳

●寄付者(物品なども含みます)

【一般寄付など】近田千波、株式会社シーテック、玉村末妃、八木巖、中島正人、伊藤武士、宇野菊夫、大島京子、加藤勝子、大野博人、後藤文昭、酒井俊輝、水野愛、目加田貴弘、山田志帆、丹羽輝明、(一財)住友理工あったか基金、林秋光、山口裕晃

【Nたまサポーター】天野友貴、松浦史典、八木巖、塩田匠弥、春田みな美、廣井修平、オヴァ・ママの会、高橋美和子、木村容子、岡谷鋼機株式会社、中島正人、浅野陽子、山田淳一、木村仁志、黒田朱里、水谷洋子

【Nたま協賛】連合愛知、岡谷鋼機株式会社

●アフィリエイト

アマゾン・ヤフー993円/  
楽天1,265ポイント



みなさまのご理解・ご協力に心より感謝申し上げます

なごや せ球ひろば 入場無料

JICA 中部

社会科見学・総合学習に

食のゾーン  
エスニックレストラン  
アジア、中東、アフリカ、中南米など、世界各国のお料理をお楽しみいただけます。海外旅行がお好きな方におすすめです！

買物ゾーン  
フェアトレードショップ  
コーヒーやチョコレート、雑貨など、フェアトレード商品が購入できるショップ。買い物を通じて国際協力ができる場所です！

アクセス：名古屋駅から徒歩13分/名駅・ささしま  
開館：10:00-17:00  
休館日：月曜・年末年始(祝日の場合は開館、翌平日が休館)  
※現在、なごや地球ひろばは、時間を短縮して開館しています。  
最新の開館情報はウェブサイトをご覧ください。

事務局のひとこと

Nたま研修が始まりました。オンラインのツールに慣れつつも、Nたま研修を通して、対面で会うときの雰囲気やお話すること、直接会って対話することの大切さを感じる日々です。(加古)

Nたまで久しぶりにAHIを訪れ変わらない温かさを体感、オンライン国際研修を覗かせて頂きました。多くの加盟団体の現場から学び今の自分があると再確認。早く気軽に皆さんの所に行ける状況になりますように。(門田)

編集後記

今号から編集委員会に参加しました。この号の会議も全てオンライン。NGOやNPOの活動にも、画期的な事象が起こりつつあることを実感しています。ただ特集ページの担当で、土井さんのインタビューが対面でできました。対面ゆえの価値やそこから生まれるものも再認識しています。(中島)

2009～2020年にさぐりあ編集長を担当しました。重責に悩むこともありましたが、それぞれの編集委員がやりたいことをみんなで形にしていけるプロセスは、貴重な経験でした。今号からは編集委員としてのんびりかかわっていくつもりです。(丹羽)

フェアトレードのチョコレートは、季節です～!

Be the change!

あなたの会社や学校でフェアトレードを広めてみませんか?  
★委託販売OK!あなたの一歩を応援します!★

↓最新のチョコ入荷情報は、SNSにて

顔のみえる店～FAIR TRADE 風(ふう) (ふ〜ず)

〒461-0015 名古屋市東区東片端町4-9  
正文館書店本店 2F  
TEL&FAX: 052-932-7373  
MAIL: huzu.fairtrade2@gmail.com

訃報 NGO・外務省定期協議会のODA政策協議会コーディネーターやNANCiS世話人を務めておられました高橋良輔さんが2021年3月5日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

発行：特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター  
会報編集委員：市川隆之、貝谷京子、高橋里加子、内藤裕子、中島正人、丹羽輝明、村山佳江

協力者：廣井修平  
レイアウト：久由紀枝

発行日：2021年10月16日  
印刷：山本印刷有限公司

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目3番地 YWCAビル7F  
TEL&FAX:052-228-8109 URL:http://www.nangoc.org  
E-Mail(代表):info@nangoc.org

会費・寄付は以下よりお願いいたします。

- ①クレジットカード <http://nangoc.org/membership/shien.php>
- ②郵便振替 (口座番号)00860-5-90855 (口座名)特定非営利活動法人名古屋NGOセンター